

〔中国の絵画展によせて〕

李迪筆「雪中帰牧図」

絹本墨画淡彩 各23.5×23.5cm

左右それぞれに李迪の落款があります。右幅は右下の土坡の暗部に、左幅も二本の木の間の土坡に、どちらも「李迪」と小さく目立たぬように墨書きされた、いわゆる隠し落款です。こうした隠し落款は宋時代の画にはよく見られます。例えば、北宋の范寛筆「谿山行旅図」(台北・国立故宫博物院蔵)や南宋初の李唐筆「夏冬山水図双幅」(高桐院蔵、国宝)ですが、後の時代にはあまり見られません。

文献の方で李迪を調べますと、12世紀の後半、南宋時代の孝宗、光宗、寧宗朝の頃の画院画家で花鳥を得意としたことがわかります。

すると、この作品は李迪の双幅の画ということになりますが、ことはそう単純ではありません。

すなわち右幅の方は構図、画技、落款ともなんら問題はなく、南宋院体画の傑作であると研究者の意見は一致しています。

ところが左幅の方は、一見対に相応しい内容と画風を示しているのですが、子細に検討を加えていくとどうも物足りないのです。

例えば土坡と牛の輪郭線が繁雑に交わり、右幅の様な細心さに欠けますし、雪の積った枝も、先の

先まで神経が行き届いた右幅に比べれば生気が欠けています。また中国の生命ともいべき筆線を見ても、牛の背中の輪郭線には不自然な強調があり、人物の輪郭線も頼りなく、牛の毛描きも形式的なところがあります。

そして、李迪という落款の書体もいくぶん異なり、墨の付き方も右幅と違います。

また、左幅の画絹は右幅に比べ、幾分密で整っており、やや新しい感じがします。

もちろん、左右の二図にはなんらの違いもないという意見もありますが、今では上記のような意見が優勢です。ですから国宝の指定を受けているのは右幅だけで、左幅は国宝附属品ということになっています。

つまり現在対幅になっているこの画も、本来この形式で描かれたかどうかはわからないのです。元は右の図だけだったかもしれないし、掛幅ではなく多くの画を集めた画冊の一図だったかもしれない。また左幅は李迪の画の後の模写なのか、あるいは李迪の弟子が師の作品に合せて制作したのかも知れません。(藤田伸也)

左幅



右幅



季刊 美のたより No.79

昭和62年 5月 14日

発行 大和文華館